



教皇 PREVOST への手紙

FERDINANDO FREGA · GILLETTENARRATIVE · GILLETTEVATICANO · 13/17

教皇 Prevost 聖下、

私の名は **Ferdinando Frega** と申します。

敬意をもって聖下には書き送ります。聖下の時間が幾百万の人々の霊的な世話に捧げられていること、そして聖下のもとに届くあらゆる言葉が、御前に至るまでに多くの手を通ることを承知しております。

聖下は教皇であります。しかしその前に、フランス語の姓を持つアメリカ人の男であります。私は聖下の職務に語りかける前に、その男に語りかけております。役割そのものより前に存在した責任と、記憶と、歴史を担う人に。

何年ものあいだ私は、人間の振る舞いと、記憶と、人間の尊厳を探る一つの語りに取り組んできました。この道のりで私は、決して無礼でなく、決して冒瀆的でなく、つねに最大の畏敬に導かれたイエスの表象をつくり出しました。それは、見られてこなかったもの、語られてこなかったもの、神学的な次元に属する前に人間的な次元に属するものを明るみに出そうとする語りです。

私の作品において、イエスは歴史のなかを、そして人々のなかを歩く一人の男として現れます。そして、聖下の顔にもしかすると微笑みをもたらすかもしれない語りの細部の一つ、お伝えしたく思います。私の作品において、彼は **Gillette** のために働いており、誰もそれを知りませんでした。**Gillette** は、聖下とちょうど同じように、フランス語の姓を持つアメリカ人の男でした。

Gillettenarrative.com の **Eternity** の欄に、私が霊的な次元に捧げた道筋があります。**Mental Health** に充てた欄——私にとってあらゆる人生における帰還不能点を表すもの——には、多くの人が想像しても本当には知らないものがあります。脆さと、回復力と、自分自身および他者への責任についての自伝的な省察です。

書くことへの私の情熱に伴う一つの所作があります。私は自分の作品を世界のすべての読者に無償で与えます。しかし誰かが私に会いたいと望むときは、いかなる区別もなく、両面に署名した1ドルを求めます。それは値段ではありません。象徴です。あらゆる人と人との出会いには価値があること、そしていかなる言葉も自覚なしに与えられるべきではないことを、思い出すための方法です。

私は聖下に何も求めません。

私はただ、人間であるとは何を意味するのかについての省察への誠実な寄与として、自分の作品を分かち合いたいだけです。私の文章は英語と、さらに21の言語で読むことができます。そのなかにイタリア語は見つかりません。それは私が話す言語であり、生まれによって私に属する言語ですが、私はそれで書かないことを選びました。1970年代に8年間私を受け入れたレッジョ・カラブリアの寄宿学校の聖ヴィンセンチオ修道会の修道女たちは、私はイタリア語で4という評点に値すると言っていました。私はつねに、教会とその教育者たちが私に教えたことを尊重してきました。

これらの数行に割いてくださるかもしれない時間に感謝申し上げます。

イエス・キリストが讃えられますように。

これは公開書簡であり、私の読者のために公表されます。透明さは人間の本性の最も高い表現の一つだと私は信じています。私に隠すものは何もありません。ただ、私たちそれぞれが内に抱え、人生が乗

り越えるよう促す偏見を除いては。この理由から、私は自分が書くこと、考えること、そして聖下の前に置くことを公に分かち合います。真実は決して光を恐れるべきではないからです。

Ferdinando